

ち富國の二割の租税負擔率は貧國の一割五分の租税負擔率よりも、國民經濟を壓迫する程度が少いというのである。思うに國家は生存の目的のため或程度の經費の支出を絶對的に必要とするのである。國家にも最低生存費が考えられるというのである。従つて最低生存費を顧慮すると、同一の租税負擔率にしても富國と貧國とにより解釋を變えねばならぬのである。ここに租税負擔論は一變して經費論となるのである。すなわち、その國の徴收した租税は必要缺くことの出来ない經費にあてられているかどうか、各國の最低生存費を如何にして算定すべきかの問題にうつらねばならぬ。かの租税總額を分子とし國民所得を分母として算定した租税負擔率の一本槍で問題を解決するが如きは、餘りに單純に過ぎる。租税負擔率の重要なことは疑の餘地のない所であるが、問題解決の多くの鍵の中の有力なる一つであるに止まる。他の鍵のあるのを忘れてはならぬ。

昭和二十五年五月二十日 印刷
昭和二十五年五月廿五日 發行

財政學入門
定價 百五拾圓

著者 汐見三郎

發行者 株式會社 廣文社
東京都千代田區神田駿河臺三ノ七

印刷者 大洋印刷産業株式會社
東京都千代田區神田旭町十一

原田憲次郎



發行所

株式會社

廣

文

社

東京都千代田區神田駿河臺三ノ七

電話神田(25)三〇二二番
振替東京一一四八六八番
會員番號A一一〇二七番

納本

入門經濟學叢書

商 學 入 門	國 際 經 濟 入 門	財 政 經 學 入 門	經 營 經 濟 入 門	勞 働 問 題 入 門	學 易 論 入 門	商 學 博 士 向 井 鹿 松	慶 大 教 授 寺 尾 琢 磨	商 學 博 士 北 澤 新 次 郎	商 學 博 士 高 瀨 莊 太 郎	經 濟 學 博 士 波 多 野 三 郎	經 濟 學 博 士 沙 見 三 郎	經 濟 學 博 士 高 野 兼 太 郎	經 濟 學 博 士 野 村 兼 太 郎	經 濟 學 博 士 高 垣 寅 次 郎	經 濟 學 博 士 小 島 昌 太 郎	經 濟 學 博 士 久 保 田 明 光 郎	經 濟 學 博 士 沖 中 恒 幸 光 郎	經 濟 學 博 士 經 濟 學 博 士 久 保 田 明 光 郎	經 濟 學 博 士 野 村 兼 太 郎	經 濟 學 博 士 中 山 伊 知 郎	文 學 博 士 高 田 保 馬	經 濟 學 博 士 高 橋 誠 一 郎	慶 大 名 譽 教 授 高 橋 誠 一 郎
------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---	---	--	---	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--------------------------------------	--	---

入門經濟學叢書



商 學 入 門	國 際 經 濟 入 門	財 政 經 濟 入 門	經 營 經 濟 入 門	勞 働 問 題 入 門	計 學 入 門	國 貿 易 論 入 門	業 經 濟 入 門	業 經 濟 學 入 門	融 論 入 門	幣 論 入 門	經 濟 史 入 門	經 濟 政 策 入 門	社 會 主 義 經 濟 學 入 門	經 濟 學 入 門	經 濟 學 史 入 門
商 學 博 士	經 濟 學 博 士	經 濟 學 博 士	商 學 博 士	商 學 博 士	慶 大 教 授	商 學 博 士	經 濟 學 博 士	經 濟 學 博 士	經 濟 學 博 士	經 濟 學 博 士	經 濟 學 博 士	經 濟 學 博 士	文 學 博 士	經 濟 學 博 士	慶 大 名 譽 教 授
福 田 敬 太 郎	波 多 野 三 郎	汐 見 三 郎	高 瀨 莊 太 郎	北 澤 新 次 郎	寺 尾 琢 磨	向 井 鹿 松	沖 中 恒 幸	久 保 田 昌 明	小 島 昌 太 郎	高 垣 寅 次 郎	野 村 兼 太 郎	中 山 伊 知 郎	高 田 保 馬	土 方 成 美	高 橋 誠 一 郎



